

A. ピアサポーター向けプログラム

<p>科目 A-6</p>	<p>支援の実際</p> <p>1. 自助グループ活動の実際</p> <p>2. グリーフケア 1) グリーフケア 2) 周産期喪失を経験した当事者の体験から考えるグリーフケア</p> <p>3. 養子縁組制度と支援の実際</p>	<p>講師名</p> <p>1. 近藤裕子 大阪府男女共同参画推進財団 相談事務局</p> <p>2-1) 石井慶子 聖路加国際大学客員研究員</p> <p>2-2) 大竹 麻美 遠藤 佑子 周産期グリーフケアはちどり プロジェクト</p> <p>3. 小川 多鶴 アクロスジャパン 代表理事</p>	<p>時間数</p>	<p>講義 70分</p>
<p>【科目目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポートの実際の活動について理解できる。 ・グリーフケアについて理解できる。 ・養子縁組支援について理解できる。 				
<p>【内容】</p> <p>1. 自助グループ活動の実際（15分）</p> <p>1) 事業目的・事業内容</p> <p>2) 参加者の様子・感想等</p> <p>3) 今後の課題</p> <p>2. グリーフケア</p> <p>1) グリーフケア（20分）</p> <p>（1）グリーフケアとは何か</p> <p>（2）流産・死産・人工死産・新生児死のグリーフケアとピアサポート</p> <p>（3）不妊治療・不育症治療・周産期喪失のグリーフに関わるピアの課題 「適切な支え」となるために</p> <p>2) 周産期喪失を経験した当事者の体験から考えるグリーフケア（20分）</p> <p>（1）団体紹介</p>				

(2) ～当事者が行う、家族への支援体制に関する実態調査～「赤ちゃんとお別れしたお母さん・お父さんへのアンケート」へ届けられた当事者の声から考える支援の在り方

3. 養子縁組制度と支援の実際(15分)

・養子縁組制度とその情報提供

[受講される皆さまへのメッセージ]

1. 自助グループ活動の実際：近藤裕子

不妊であることは自分の一部であって全てではありません。しかしセンターで出会う多くの方々は、不妊であることだけでご自身を全否定し責めておられます。どんなに頑張っても結果が出ないこともある不妊治療。不妊であることも含め“大切な自分”と思ってもらえるようにサポートしていくことが必要だと思っています。

2. グリーフケア

1) グリーフケア：石井慶子

さまざまな喪失を体験してきた人々を支えるために、グリーフとグリーフケアについての基礎的なことをご紹介します。ピアサポートをしていくうえで、直面する難しさについてもお伝えしていきます。

2) 周産期喪失を経験した当事者の体験から考えるグリーフケア

:周産期グリーフケア はちどりプロジェクト

周産期喪失後のグリーフケアは、不妊症・不育症患者に限定された課題ではありません。しかし不妊症・不育症を受けるカップルへの支援においても、流産・死産を経験した際に直面する重要な支援であり、その関わりが対象者のその後の人生に大きな影響を与えます。

大切なわが子とお別れしたお母さん・お父さんがどのような悲しみを経験し、どんな思いでいらっしゃるのかを知っておくことで、無意識に相手を傷つけることを未然に防ぐことができます。また知識レベルでの学習よりも、さらに深い次元での対象理解につながると私たちは信じています。本当の意味で相手の気持ちを受け止める「傾聴」の技術はグリーフケアに欠かせない基本的姿勢であり、当事者の声に耳を傾けるところから、真の寄り添い支援について受講者のみなさんとともに考える時間になればと願っています。

3. 養子縁組制度と支援の実際：小川 多鶴

特別養子縁組制度への理解を深め、適切な情報提供の在り方を知る

【参考図書等】

1. 自助グループ活動の実際：近藤裕子

(一財)大阪府男女共同参画推進財団発行「相談現場から見える現代社会と女性センターの役割」

2. グリーフケア

1) グリーフケア：石井慶子

講義の中でご紹介します。

2) 周産期喪失を経験した当事者の体験から考えるグリーフケア

：周産期グリーフケアはちどりプロジェクト

令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「子どもを亡くした家族へのグリーフケアに関する調査研究」各種手引き

URL <https://cancerscan.jp/news/1115/>

3. 養子縁組制度と支援の実際：小川 多鶴

「うまなくても育てられます」(講談社) 後藤絵里